



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎(026)236-2531

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



冠雪の常念岳とコハクチョウ

毎年、冬の時期になると安曇野地域には、シベリアからのコハクチョウが飛来してきます。北アルプス常念岳（2857^標）の山頂の冠雪とともに、冬の訪れを感じさせています。

[写真提供：柳沢盛一（指導普及課）]

主な項目

- 森林ボランティアネットワーク会議を開催 2^頁
- 馬場島荘に治山のP R空間が完成 3^頁
- 新潟県中越地震 緊急点検で職員を派遣 3^頁

もっと活動したい!

ボランティアによる森林づくり

森林ボランティアネットワーク会議を開催

【指導普及課】十一月十一、十二日の両日、岐阜県山県市において、中部局管内の「ふれあいの森」協定相手方九団体・十六人の参加のもと、「平成十六年度森林ボランティアネットワーク会議」を開催しました。

この会議は、ふれあいの森の協定相手方である、NPO・ボランティア団体等との意見交換等を通じて、国民参加の森林づくりの一層の推進を図る目的で開催しているもので、今年度で三回目の開催となります。

分局統合後初めての会議となりましたが、初日は、岐阜森林管理署神崎国有林に設定されているふれあいの森「樹遊人（じゆうじん）」の森」と地元優良材である「長良スギ」の製材工場を見学しました。

「樹遊人の森」の見学では、協定相手方である樹遊人塾の清水副代表と池戸事務所長より、樹遊人の森の概要や活動内容等について説明していただきました。

スギ・ヒノキ林の間伐の実施、広葉樹の植栽、間伐材を利用した休憩小屋の作設等の取組みを意欲的に実施されており、各団体の方々と職員との間で積極的な意見交換が行われました。

二日目は、各団体の活動状況報告として、それぞれのユニークな取組み等が報告された後、ふれあいの森での活動等についての活発な意見交換・議論が行われました。

各団体によって活動規模や目標は異なりますが、「ボランティア



会議に集まったNPO、ボランティア団体の面々

ア傷害保険の情報をもっと欲しい」、「署等との連絡体制をより緊密にしていきたい」、「より高度な技術を身につけていきたい」等の共通した意見もみられました。

これらの意見交換を通じて、それぞれの活動の長所を取り入れて、今後の活動に役立てたいという、参加者の熱意が伝わる会議となりました。

民有林との情報交換 指導普及連絡会を開催

【指導普及課】十一月二十四、二十五日の両日、愛知県瀬戸市において、管内四県の指導普及担当者、各森林管理署の流域管理調整官等の参加のもと、平成十六年度中部森林管理局指導普及連絡会を開催しました。

指導普及連絡会は森林の流域管理システム推進の一環として、民有林と国有林との相互の指導普及体制の連携強化を図ることを目的として、今年で十一回目の開催となります。

初日は、愛知県の方から瀬戸市東印所町の民有林において、「蘇る荒廃地の森林管理の現状」



瀬戸市内のホフマン工事箇所を視察

と題してホフマン工事箇所の見学を行い、続いて場所を瀬戸国有林に移して「じょうこうじ響きの森」をフィールドとした森林環境教育等の取り組み状況を名古屋事務所、愛知森林管理事務所から説明を受けながら現地見学会を実施しました。

二日目は会議室において、参加各機関の森林環境教育の取り組み状況や質問事項に対する意見交換を行いました。

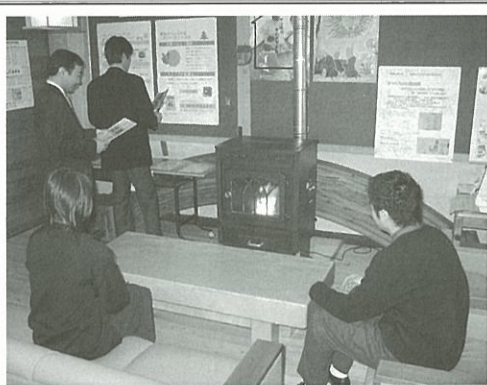
今回から長野県林業振興課も参加し、森林環境教育の実施や、間伐材利用の事例の紹介など幅広い分野での情報交換ができました。参加者からは「新しい情報が得られ参考になった」などの声があり有意義な会議となりました。

ペレットストーブの利用をPR

中部管理局の玄関ロビーに設置したペレットストーブが、十二月期より点火されています。

灯油価格が高騰する現在、ペレットの燃料代も一日当たり平均で四五〇～五〇〇円程度（八時間焚き・単価四五円/kgの場合）と価格面でも灯油並になってきており、長野県においても長野タイプの開発等で今後需要がますます高まる気配です。

設置後初めての冬を迎えて、これからストーブの暖房能力等も試されるところですが、ペレットストーブの炎が局を訪れる人に暖かさを感じさせています。



馬場島荘に治山のPR空間が完成

〔富山署〕十一月十五日、富山県上市町伊折に完成した町営馬場島荘において、地元上市町、県、県警関係者、局からは関局長はじめ関係職員の出席のもと、盛大に竣工式が行われました。

「馬場島」は、豊かな自然に恵まれ、北アルプスの名峰「剣岳」への登山ルートとして名高い早月尾根コースの登山口にあります。全国から多くの登山客が訪れます。

この馬場島荘は、登山の基地、宿泊施設として、昭和三十二年に建てられ、以来多くの登山客に利用されてきましたが老朽化



馬場島荘のオープニングでテープカット



治山ダム群を配置したジオラマ

が著しいことから、上市町が本年度、新しい宿泊施設として建設をしたものです。

当署においては、馬場島荘の建設にあたり当地区が早月川上流の立山川、白萩川に挟まれ古くから治山事業が行われてきたことから、施設の入口に当地区の治山事業を紹介するスペースを確保していただき、剣岳を中心とした山嶺と治山施設を配置したジオラマを展示しました。

展示したジオラマには、構築した治山ダムを配置して治山事業のPRを行うとともに、登山者の安全を確保するために山小屋や登山道の位置を正確に明示し、ボタン操作によりLEDが

点灯するように作成しました。配置も正面に見える山脈等と一致するように配慮してあります。

今年度は、台風の上陸やゲリラ的な局地的集中豪雨が多く発生し、馬場島荘の近くを流れる立山川でも、七月末には土石流が多く発生しましたが、治山事業の実施により被害を未然に防ぐことが出来、無事に竣工式が執り行われ、関係者一同「ホッ」としているところです。



〔治山課〕十月二十三日夕刻に

発生した川口町を震源とした新潟県中越地震は、震源地付近で震度7、小千谷市など周辺でも震度6強を連続して観測するなど、その規模は、阪神淡路大震災以来の大規模なものとなり、大きな余震が長く繰り返されるなど、住民の方々にとっては安らぐことの出来ない状況が続いています。



地震による地割れの状況（越路町）

この様な中で、新潟県から林野庁に対し、今後の二次被害の防止と早期復旧のために緊急に現地状況を把握することを目的として、山地災害危険地区等緊急点検調査のための、治山技術者の派遣要請がありました。

それに応じて、山形県、福島県、群馬県、長野県、富山県及び東北、関東、中部の各森林管理局署から治山担当者など総勢八十八名が、十一月八日から二十日まで参加することとなりました。

中部局からは四陣に分かれて計十二名が参加し、新潟県職員と合同で旧六日町、十日町市、旧入広瀬村、越路町を担当し、調査を実施しました。

- | | | | |
|--|--|--|-----------------------|
| 記録した小千谷市を始め二十町村で、人家等の保全対象に近く、現地立ち入り可能な山地災害危険地区及び治山施設の被害状況把握を中心に、総点検箇所数一七八九箇所に及ぶものとなりました。 | 調査に当たった者は、余震が続く中、事故もなく所期の目的を果たすことができ、新潟県からも感謝されているところです。 | 今回参加頂いた方々及び派遣に当たってご協力頂いた関係者の方々に御礼申し上げます。 | なお、今回派遣された方々は次のとおりです。 |
| ◇第一陣 | 管理局 開藤 直樹 | 北信署 小池 新太郎 | |
| | 立澤 和実 | | |
| ◇第二陣 | 管理局 古谷 治久 | 中信署 澤口 章一 | |
| | 木曾署 松田 博文 | | |
| ◇第三陣 | 管理局 田中 稔 | 東信署 中村 享 | |
| | 南木曾支署 武田 康 | | |
| ◇第四陣 | 管理局 中澤 敏雄 | 中信署 山本 文男 | |
| | 南信署 山田 政孝 | | |



市町村長に対し日頃の御礼挨拶を行う関局長

市町村と国有林との連携

国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催

〔企画調整室〕平成十六年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会が、十一月十九日に松本市において開催されました。

森林管理局の統合後初めて開催された当協議会には、管内各地の世話人市町村長二十一人と、当局から関局長、山崎次長、各

部長、関係課・室長が出席したほか、毎年林野庁で開催されていた「国有林野等所在市町村長会議」の廃止に伴い林野庁から青木管理課長、篠原林業労働対策室長が出席しました。

会議の冒頭に、関局長から、中部森林管理局の業務運営と集中改革期間中の理解と協力に対する御礼、統合後の中部局の業務運営の説明、今後の当協議会のあり方等の挨拶があり、また林野庁管理課長からは、日頃からの国有林野事業への御支援

県産材の利用促進で要請 長野県産材振興対策協議会

〔販売課〕去る十一月三十日、

県産材の利用促進を図るため、長野県産材振興対策協議会（構成団体―中部森林管理局、長野県、県木連、県森連等木材関係団体）として、国の出先機関、市町村、民間団体等二十箇所に要請活動を行いました。

今回の要請では、県産材を使用することにより、林業・林産業の振興が図られるだけでなく、地球環境にもやさしい循環型社会の構築に寄与する点を強調しました。

御協力に対しての御礼と中央情勢についての説明がありました。引き続き、次長、各部長から平成十六年度の主な取組等について説明を行いました。

意見交換では、各市町村長からの今後の国有林野の利活用、間伐材の利用等多岐にわたる意見要望がありました。活発な意見交換が行われ、予定された時間を延長することとなり、市町村の国有林に対する大きな期待が感じられた会議となりました。

また、木材の利用方法についても、改定された「木材のすすめ」等のパンフレットから、建築基準法の改正点やそれに伴う具体的な使用事例を説明し、提案型の要請活動を行ったところです。

その結果、各団体とも要請の趣旨に賛同していただき、可能な範囲で積極的に木材を使用したいとの反応がありました。

また、多くの市町村においては、首長や農林関係者だけでなく、教育、福祉部門の設計担当者も同席し、具体的な使用事例について専門的な質問が出されました。

この活動の結果を数値で表す



木材の利用を要請する森林整備部長（長野市）

ことはむずかしいところですが、値段のみが強調された以前の状況に比べると、県産材の利用について肯定的な意見が多く出されるようになったことから、引き続き国、県、木材関係団体が一体となった利用促進活動の必要性を感じました。

中部森林管理局人事

十二月二日付

- ▽局計画課経営計画第二係長（局計画課付） 松井 邦彦
- ▽退職（計画課経営計画第二係長） 小林 宣
- ▽退職（森林整備課保護係長） 小山 陽子

研修予定

中央研修（森林技術総合研修所）

- ▽新採用研修Ⅰ・Ⅱ種後期 1月12日～1月21日

クリスマスツリーを販売

〔広報室〕中部森林管理局の玄関に、大きなクリスマスツリーがお目見えしました。

これは、南信森林管理署が、八ヶ岳国有林より採取したトウヒの除伐木で、南信署では十二月一～三日にかけて一〇〇本程度を販売しました。

いつも静かな玄関も少しだけ華やかさを感じさせています。



太田 昭信

- （伊那谷総合治山） 井元 幸子（中信署）
- 近江 隆昭（木曾署）
- 富谷 好生（東濃署）

局研修（研修所他）

- ▽パソコン研修Ⅲ（ネットワーク等） 1月19日～1月21日
- 希望者で署長等の推薦者
- ▽管理実務研修 1月25日～1月27日
- 各署等の管理係長等

各地のたより

平湯大ネズコの保護活動

【飛騨署】十一月四日、上宝村 栃尾小学校五年生は、平湯区、保護協議会とともに、平湯国有林にある「遊々の森」で、巨樹・巨木一〇〇選の「平湯大ネズコ」の保護活動を行いました。

栃尾小学校は、平成十八年に岐阜県で開催される全国植樹祭に、子供の意見を提案する「緑の子ども会議」の賛同校として、これまでに四回の活動を行っています。



「大ネズコ」の大きさに驚く子供たち

樹種当てクイズや木の根の働き等を学び、堆肥となる落葉を大ネズコ周辺に散布したり保護柵の修理作業を行いました。

定期的に保護や管理活動を行っている協議会会長の「千年生きてきた大ネズコを、千年後まで残すために環境を守ろう」との話に、児童は「いつまでも森林や大ネズコを大切にしたい」と話していました。

また、十九日には五年生九名の児童と担任の先生から、これまでの学習での感想を書いた感謝状が栃尾森林官へ届けられましたので紹介します。

栃尾小学校5年
長瀬 和菜

毎回毎回、わたしたちの学習でいろいろなことを考えてくださってありがとうございます。

とても勉強になりました。

四月の木の種をつくって、仕組みを教えてもらったときが、とても心に残っています。木の種類もたくさん分かりました。

わたしたちのしつ問にも答えていただいていたのもわかりやすかったです。

わたしは、これからも自然や植物を大切にしていきたいです。

栃尾小学校5年

大田 龍馬

いつも校外活動等に協力してくれてありがとうございます。

いつも楽しんで校外活動できるように大ネズコやいろいろなところへ連れてってもらい、たくさんのお話を学びとても勉強になりました。

大ネズコのことやミズナラのことや木の植え方などのことを校外学習でいつも教えて下さってとても勉強になります。

ばくもこれから自然を大切にするためにいろいろな活動をしていきたいと思っています。

馬瀬川の源流を訪ねて

【飛騨署】十一月十日、下呂市中切小学校四年生十六名を対象に、日本海と太平洋の分水嶺である西ウレ峠で森林教室を行いました。

中切小学校は、ふるさとの清流馬瀬川のことをよく知りたいたと、これまで川の生き物や河口部等で学習してきましたが、馬瀬川の水を生み出す森の役割を学ぼうと、当署に依頼があったものです。

当日は紅葉も終わった西ウレ



森の役割を学習する中切中の子供たち

峠で、三日町森林官から森林の働きやゴミ放置の問題点の説明を聞き、宝探しゲームを楽しんだ後、フィールドビンゴで森を観察しながら、森林散策を行いました。ブナとミズナラの森では、落ち葉を踏み地中の土を握り森の保水機能を体感したり、源流の小沢では水のしみ出る様子や森の浄化作用を観察しました。

児童たちの「魚がいっぱいいるきれいな馬瀬川がいつまでも続いてほしい」との願いと共に、自然を楽しみ守る意識が豊かに育って欲しいと感じました。

第十一回CF事業を開催 (除伐Ⅱ類体験)

【東濃署】十月二十九日に阿木恵那国有林において第十一回名古屋CF（シティ・フォレスト）古屋CF



一年間のCF事業ご苦労さまでした。

事業を実施しました。

当日は天候もよく、職員から作業方法等について説明を受けた後、班毎に分かれて秋晴れの澄んだ空の下、十三名の隊員が除伐Ⅱ類作業に汗を流しました。

最初のうちは、伐倒木の選木に迷う隊員の姿も見られましたが、時間が経つにつれ、樹間や形質を見ながら、伐倒木を選木し、暗かった林内に光が射し込み、明るくなっていく山の姿にやりがいを感じて、鋸を懸命に動かしていました。

作業終了後「もっと作業したかった」という声も聞かれ、作業前と比べ明るく見通しのよくなった山を見て、隊員達は充実した面持ちで帰路につきました。

自然の素材で クリスマスリースを作ろう

【名古屋事務所】十一月二十八日、森林交流館において第八回森林ふれあい講座を開催しました。

小春日和のなか、二十名の参加者は、藤や山ぶどうなどの蔓をベースにクリスマスリース作りに挑戦しました。



クリスマスリース作りを楽しむ参加者

飾り付けには、国有林の中から拾い集めたマツボックリやコウヨウザン・モミジバフウの球果等をふんだんに使い世界にたった一つのリースを完成させました。

ナノの演奏もあり、澄んだメロディーが紅葉の深まった休養林内に響き渡りました。

午後からは、テーダマツの大きなマツボックリを使い、クリスマスツリー等を作り、楽しい一時を過ごしました。

イベント終了後参加者たちからは、「こんなに身近な所に心を癒してくれる場所がある事を知らなかった」と言う声も聞かれました。

参加者は立派なリースと可愛いツリーを手にとり満足そうに、有意義な講座となりました。

三十八回延べ二二〇〇人の 森林環境教育を実施

【南信署】平成十六年度の体験林業・森林教室は、都会の子供たちを中心に約一二〇〇名に実施し、十一月をもって概ね終了しました。

今年の実施内容等について振り返ってみました。

○森林教室での取組

多摩市内の一八校の六年生八八〇名を対象に、西岳国有林のカラマツ三五年生の林で間伐作業と森林の働き等の森林教室を五月二十五日から十月十四日まで



での間を前期と後期に分け実施しました。

体験者は、昭和五十七年の開始時から二万人を超え、来年度「遊々の森」の協定締結を目指して今後も取り組みを持続させていくこととしています。

○NPOとの連携

辰野町川島小学校の四二名と職員一〇名が、六月十八日学校林（分収造林）で間伐等を行い、森林官やNPOなどが指導にあたりました。川島小学校は、毎年この活動を続けていますが、今年、NPOからネイチャーゲーム等の指導を受けました。

○教職員への指導

森林管理局主催の教職員に対する森林林業体験学習として、八月四日、三峰川流域において上伊那地区の教師一二名が参加

（川島小）し、巫女淵の自然観察や間伐の体験をしました。また、八月十七日、県主催の伊那北小学校の教職員を対象とした体験学習には二〇名が参加

しました。現地説明は行ったものの、あいにく大雨となったため教室での小木工実習に変更して実施しました。

○その他
この他、八月十八日には山村留学の東京少女センター（二二名）の体験林業実施、九月一七日JICAの研修生受け入れ（二二名）、九月三十日の竜峡中学の職場体験見学の受け入れ（一名）、十月十七日三峰川みらい会議の治水、治山事業の現地見学会のフィールド提供と案内（二〇名）等森林林業体験学習に、関連する活動を積極的に実施し、ケガもなく概ね終了しました。

新年会にご利用下さい

かけ流しの湯 心のこもった料理でおもてなし



林野庁共済組合下呂保養所

あさぎり荘

電話 0576(22)2410

【写真上】

日本三大名湯の1つに数えられる下呂温泉から100mの源泉をかけ流ししています。

【写真右】

山や海の季節の食材を使った料理（冬は鍋物を中心とした料理となります。）

